

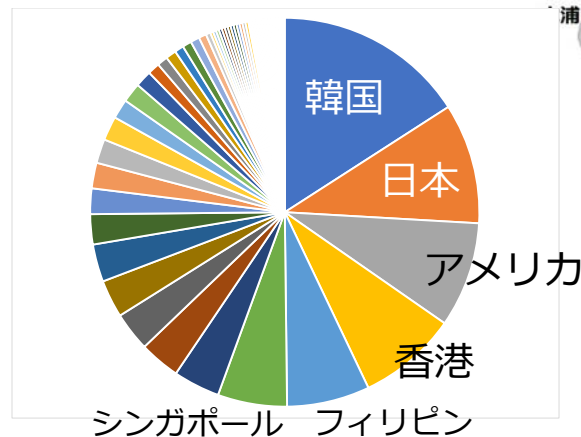
APRICOT2019 / APNIC47レポート



2019.6.21

JPOPF運営チーム

- 日時：2018年2月18日～28日
- 会場：韓国・大田
 - Daejeon Convention Center
- 参加者数：57経済圏 714名
 - (参考) APRICOT2018：64経済圏 752名
 - JPNIC国際会議参加支援プログラムで日本より学生2名が参加
- リモート参加：
 - Adobe Connect (196)
 - YouTube (3757)



- セッションの構成

- SIG

- Policy, NIR, Cooperation

- テーマ別セッション

- テクニカルセッション (APOPS他)
 - Peering Forum
 - チュートリアル
 - BoF

- 関連団体主催 セッション

- APIX, FIRST TC, GFCE Triple I, APStar, APCERT

- APRICOTでは初のハッカソンを開催

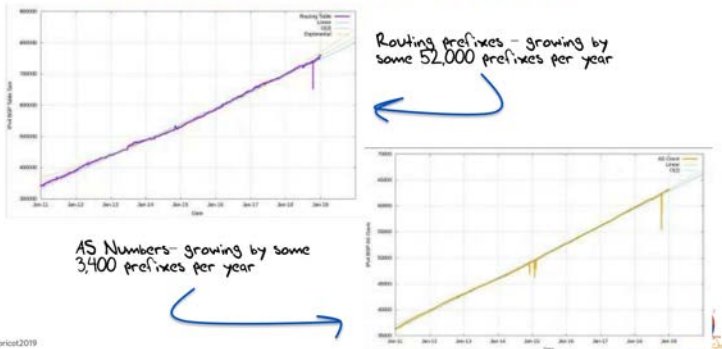


APNICのflickrサイトより

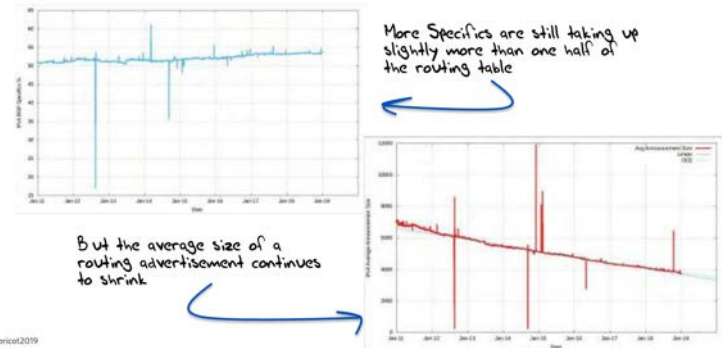
<https://www.flickr.com/photos/apnic/>

ルーティングテーブル

Routing Indicators for IPv4

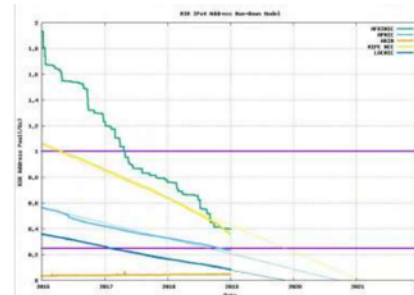


Routing Indicators for IPv4



RIR別IPv4在庫推移

What about IPv4 Address Exhaustion?



RIR Address Pool runout projections as of the start of 2019:

- ARIN – no free pool left
- AFRNIC – October 2019
- LACNIC – November 2019
- APNIC – September 2020
- RIPE NCC – January 2021

#APRICOT2019 APNIC 47



Routing and Addressing 2018 – Geof Huston

<https://conference.apnic.net/47/assets/files/APKS756/routing-and-addressing-2018.pdf>

#	Status	提案名
prop-118	議論停止	APNIC地域のIPv4アドレス移転時における要件緩和についての提案 No need policy in APNIC region
prop-124	継続議論	IPv6アドレス割り当ての定義の明確化 Clarification on IPv6 Sub-Assignments
prop-125	2019/6/30より 検査開始	不正利用申告用等のメールアドレスの検査について Validation of "abuse-mailbox" and other IRT emails
prop-126	継続議論	PDP アップデート PDP Update
prop-127	コンセンサス	最後の/8相当のIPv4未割り振り在庫(103/8)からの最大割り振りサイズの /23への変更 Change maximum delegation size of 103/8 IPv4 address pool to a /23
prop-128	コンセンサス	AS番号割り当て先組織の将来的なマルチホーム接続要件の廃止 Multihoming not required for ASN
prop-129	コンセンサス	IPv4アドレス返却プールの待機リストの廃止 Abolish Waiting list for unmet IPv4 requests

【検証プロセス】

1. 半年に1度の検証 !!

APNICよりIRT Objectに登録された“e-mail” 及び “abuse-mailbox”宛に各2通のメールが送信されます。

1通目は検証用のURL

2通目には検証用のパスコード

2. 15日間レスポンス無し

→ MyAPNICに警告が表示

3. 30日間レスポンス無し

-
- MyAPNICの機能が制限(IRT Objectに abuseが応答がない旨の記載) 且つ
 - 親レコード(IPアドレスの登録情報)にabuse-c Objectが追加 (このabuce-c 宛に問い合わせが届いた際には、APNICからリソースホルダーに対して手動で検証の要求が行われます。

- 前回のANIC46からML上での議論や提案内容の更新が行われなかったため、SIG議長が議論の停止を宣言。

- 現在のポリシー文書で定義されているIPv6アドレスの割り当てについて、定義を明確化するために文章を追加する提案。
- 以下の文面を以下のように変更する。

2.2.3 割り当てられたアドレス空間

割り当てられたアドレス空間は、それらが運営するインターネットインフラストラクチャ内での特定の使用のために、LIRまたはエンドユーザーに委任されたアドレス空間です。割り当ては、文書化された特定の目的のためにのみ行われなければならない、再割り当てされてはならない。



2.2.3 割り当てられたアドレス空間

割り当てられたアドレス空間は、相互接続の目的と同様に、それらが運営するインフラストラクチャ内での排他的使用のために、LIRまたはエンドユーザーに委任されたアドレス空間です。アドレス空間の割り当ては、それらが元の所有者のインフラストラクチャ内で動作している限り、その割り当ての元の所有者および第三者の装置によってのみ使用される。データセンター内の第三者へのアドレス指定スペースの提供（または同様のケース）のために、そのインフラストラクチャ外での再割り当て（たとえば、ISPの顧客に対する再割り当ての使用）は許可されていません。

- 現在のPDPではOPMに現地参加することの比重が高いため、提案提出からAPNIC ECからのエンドースメントまでのプロセスや期間を見直す提案。
 - 現在のPDPでは**OPMでのコンセンサス後にAPNICメンバーミーティングでコンセンサスを得る必要があるが、そのプロセスを撤廃し、代わりにSIGメーリングリストで最大2週間以内にコンセンサスを得ることとする。**
 - コンセンサスに至らなかった提案は、提案者が取り下げることができると明記。また6か月以内に修正提案を提出しない場合は、自動的に提案が期限切れとなる。
 - コンセンサス後のコメント募集期間終了後のSIG議長及び共同議長によるコンセンサス確認を1週間以内に行う、と規定。

- 提案者と多くのコミュニティメンバーのポリシーに対する考え方が異なっているように見受けられる。
 - 多くのコミュニティメンバー
 - 困ったときにポリシーを作れば良い。
 - 運用でカバー。
 - 提案者
 - 困る可能性があるならポリシーを作るべき。
 - 誤解を招く可能性のある文言は変更すべき。



- 最後の/8相当のIPv4未割り振り在庫(103/8)が2020年には枯渇すると予測されており、この延命を図るために最大割り振りサイズを/22から/23へ縮小させる提案。
 - この縮小により少なくとも3年程度の延命が期待されると提案者は試算している。

- AS番号の取得要件から、将来のマルチホーム接続予定を求めないこととする提案。
 - 現在のPDPでは「すでにマルチホーム接続をしている、もしくはPIアドレスの割り当てを受けており将来的にマルチホーム接続を行う予定がある」ことがAS番号取得組織の要件となっている。
 - これを「すでにマルチホーム接続をしている、**または他のASと相互接続する必要がある**」と変更する。

- IPv4アドレス返却プールの待機リストを廃止し、新規事業者に対してのみ割り振り/割り当てを実施するとする提案。
 - IPv4アドレス返却ループは定常的に枯渇状態であり、現在の待機リストの全メンバには現実的に割り振りが行えない状況。
 - 待機リストのメンバは、すでに103/8からの割り振り/割り当てを受けた事業者であることから、それよりも新規事業者にアドレスを配布すべき。

- 反対意見がほとんど表明されず、賛成多数でコンセンサス。
 - prop-128がRFC1930違反ではないかとの指摘があった程度。
 - もうv4のポリシー議論なんてやめてv6にいこうぜ！という意識が根底にあるのではないか。



- Gaurab Raj Upadhaya (ネパール) [再選]
- Rajesh Chharia (インド) [非改選]
- Kenny Huang (台湾) [再選]
- Benyamin Naibaho (インドネシア) [非改選]
- Yoshinobu Matsuzaki (日本) [新任]
- Yuedong Zhang (中国) [新任]
- Kam Sze Yeung (香港) [非改選]
- Paul Wilson (オーストラリア) [APNIC事務局長]



- APNIC48

- 日時：2019年9月5日～12日

- 会場：タイ・チェンマイ

- Le Meridien Chiang Mai



- APNIC49/APRICOT2020

- 日時：2019年2月12日～21日

- 会場：オーストラリア・メルボルン